

蒼穹二ユース

No.4

七大戦総括号

平成21年8月4日発行



3種目でベストを更新するなど気迫のこもった投擲で京大陸上部を引っ張った主将佐藤慎祐

～～～ 目 次 ～～～

1. 主 将 ・ 監 督 挨 拶
2. 七 大 戦 総 合 成 績
3. 七 大 戦 詳 細
4. 七 大 戦 記 録

主将挨拶

去る7月25, 26日、東京において行われた七大戦において、京都大学陸上競技部は男子総合3位、女子総合5位という結果でした。

25日に大井での前日開催となった投擲2種目で例年よりレベルの高い試合が展開され、善戦するも東北大、阪大に水をあけられる形で国立での本戦を迎えました。

本戦では4回生の勝利への思いと下回生のそれに応える奮起があいまった試合が展開されました。その気合のこもった試合を応援やマネージャーがサポートし、まさにチーム一丸となって試合に臨みました。ですが、阪大の万遍無き総力に圧倒され、大差を付けられての敗北を喫してしまいました。

この大差に屈したままではられません。この戦いを通して何がよくて何がいけなかったか、皆が感じ取ってくれたはずです。その反省を活かし、現3回生を中心にここから這い上がり、必ずや来年、七大優勝という栄光をつかんでくれることでしょう。

最後になりましたが、常日頃から現役部員を支えてくださっている蒼穹会の皆様に心からの御礼を申し上げます。その返礼を勝利という形で贈りたかったのですが、今回も叶わずに終わってしまい、申し訳なく思っております。秋の東大戦では勝利という歓喜を皆様にお贈りいたします。今後とも変わらぬご支援、ご声援を程、よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部主将

佐藤 慎祐

監督挨拶

男女ともに総合優勝を目指した七大戦、主将の佐藤慎祐が自己ベストを連発し、女子では岩橋が一回生ながら400mと800mの二冠を果たすなど、多くの選手が活躍しました。応援も盛り上がり、4回生を中心になって全員が一体となった良い試合であったと思います。しかし、結果として男子総合3位、女子総合5位に終わり、目標としていた総合優勝には遠く及びませんでした。

男女とも優勝した大阪大学との力の差は、勢いだけでは如何ともし難く、また、直前の故障やコンディショニングの失敗など、チームとして実力を100%発揮できなかったのは事実です。

個人としても、チームとしても、来年度の関西インカレでの一部昇格、七大戦での総合優勝という目標を達成するために、今回浮き彫りになった様々な課題をクリアしていかなければなりません。部員それぞれが、それぞれの課題を克服するために必要な戦略を練り、高い意識を持って日々取り組んでいけば、チームとしてもさらに成長していくでしょう。また、それができるチームであると思います。

当日は、大変多くの先輩方に応援に駆けつけていただきまして、誠にありがとうございました。秋の東大戦、再び東京の地での戦いとなります。必ずや男女ともに連覇という結果で、皆様のご期待におこたえします。今後とも、御支援・御声援のほど、よろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部監督

平子 達也

七大戦総合成績

(7/25,26 大井陸上競技場、国立競技場)

第 60 回全国七大学対校陸上競技大会 対抗得点

1 位	大阪大学	119 点(T 59 点 F 60 点)
2 位	東北大学	72 点(T 21 点 F 51 点)
3 位	京都大学	69 点(T 50 点 F 19 点)
4 位	名古屋大学	53.5 点(T 46.5 点 F 7 点)
5 位	東京大学	36 点(T 22 点 F 14 点)
6 位	北海道大学	27 点(T 14 点 F 13 点)
7 位	九州大学	22.5 点(T 18.5 点 F 4 点)

第 20 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対抗得点

1 位	大阪大学	22.5 点(T 15 点 F 7.5 点)
2 位	北海道大学	19 点(T 8 点 F 11 点)
3 位	名古屋大学	12 点(T 8 点 F 4 点)
4 位	東京大学	11 点(T 6 点 F 5 点)
5 位	京都大学	10 点(T 10 点 F 0 点)
6 位	九州大学	3 点(T 3 点 F 0 点)
7 位	東北大学	2.5 点(T 0 点 F 2.5 点)

七大戦詳細

ハンマー投決勝

4位	久下 哲寛 (5)	43m88	PB⑧
6位	佐藤 慎祐 (4)	38m15	PB
9位	嶋田研志郎 (4)	27m90	PB

炎天下の中競技は始まった。嶋田が2投目で30m近くを投げ、自己ベストを更新するもベスト8にはわずかに及ばず9位、全員で4投目を投げることは出来なかった。佐藤は相変わらず気合いの入った掛け声と共に、40mにあと一步という投擲を見せ、6位に食い込んだ。久下は3・5投目でベストを大幅に更新し、阪大の選手と表彰台を争うが惜しくも4位。ハンマー投げで京大は4点を獲得した。(川島)

円盤投決勝

7位	矢川 勝太 (2)	34m07	PB
8位	佐藤 慎祐 (4)	33m16	PB
14位	久下 哲寛 (5)	27m72	PB

茹だるような暑さの中、予定より20分遅れて競技は開始された。久下、佐藤の両選手はハンマー投げで6投した疲れも癒えぬままに試合に臨んだ。久下は2投目、3投目ともに記録を伸ばしたが、いずれも30mに届かず、ベスト8には残れなかった。佐藤は自己ベストを更新し、ベスト8に残ったものの、4、5、6投と記録を伸ばすことは出来なかった。矢川は1、3投目で自己ベストを2度更新し、得点圏に入ったが、後半の3投で記録を伸ばせず、下にかわされて得点には至らなかった。結果的には得点できなかったものの、全員がベストを更新し二日目の本選に勢いをつけた。(板垣)

3000mSC 決勝

2位	櫻井 研吾 (4)	9.31.22	PB⑭
4位	山田 唯 (3)	9.33.53	



最初のトラック競技でチームを勢いつかせた
櫻井(中央)・山田唯(左)

七大戦最初のレースとして昨年同様大量得点が期待された。1000mが3分15秒というスローペースのなか、櫻井、山田とともに集団の真ん中で力を温存しながらレースを進めていく。中盤山田が先頭から遅れそうになるが、粘り強い走りで見事に先頭に食らいつく。二人とも2000mを先頭集団で通過して、ラスト1周の手前で山田がトップに躍り出るが、阪大の選手にトップを奪われてしまう。櫻井が最後の直線で必死にトップに迫るが、惜しくもあと一步及ばなかった。山田も最後まで死力を尽くし入賞を確保した。チームに勢いを与える走り、総合優勝に向けて良い出だしとなった。(不破)

棒高跳決勝

2位	田中 皓介 (2)	4m40
3位	秋元 一志 (2)	4m30
	小西 康晴 (3)	DNS



期待通り2人そろって表彰台へ ポールコンビ

期待の棒高跳び。小西・秋元・田中がエントリーしたが、小西は負傷が響き棄権に終わった。秋元は4m20・30失敗しながらもを跳ぶ。次の4m40の1本目を失敗したのでパスし、50に挑戦するものの成功できず、3位となった。田中は危なげなく4m20・30・40を跳ぶものの、50は失敗し、2位。競技が大幅に遅れ、炎天下な過酷な環境の中行われたが、しっかりと得点することができた。(山田諒)

女子 400m 予選

岩橋 優 (1) 2組1着通過 62.20
加奈山憲代 (1) 1組3着通過 62.73 PB

第1組の加奈山。大舞台の七大学戦において、そのプレッシャーをものともしないような勢いのあるスタートをきる。序盤からスピードを上げアウトコース走者を颯爽と抜く。後半少し失速するも無事に3着で決勝に進む。また、このレースでベストを更新し、決勝での更なる活躍を予期させた。第2組の岩橋。多種目出場となる中の1つ目。スタートから積極的なレース展開で間もなくトップに踊り出る。そのほかの追従を許さない堂々とした走りでトップで決勝に進む。このレースは、京大にとって勢いがつくものとなった。(川室)

400m予選

萩生 翔大 (3) 1組1着通過 49.93
山瀬 康平 (3) 2組6着 52.44
堀田 孝之 (1) 3組6着 53.47

1組目には萩生が出場。200m付近で外側の選手を抜き去ると、最後は後続をうかがう余裕を見せながらゴール。決勝に期待を持たせる走りだった。2組目には山瀬が出場。前半快調な走りを見せるも200m付近で失速。終盤は粘り強い走りだったが惜しくも決勝進出はならなかった。3組目には堀田が登場。初の七大学戦とは思えない、終始安定した走りをみせる。決勝こそ逃したものの積極的な素晴らしいレースだった。来年こそ是非決勝に残って得点を獲得してほしい。(白石)

110mH 予選

大橋 正義 (2) 3組6着 16.26(-1.7) PB
前田 靖朋 (3) 2組4着 16.47(-2.2)

清水 宏幸 (1) 1組6着 17.18(-1.3)

まず1組目に登場したのは清水。ベストを狙うと言っていた通り、向かい風の中ベストを更新。これからの練習で走力を高め、どんどん記録を更新して行って欲しい。続いて2組目に登場したのは前田靖。ここ最近調子が良く連続してベストを更新してきていたこともあり、今回もベスト更新に期待がかかったものの向かい風の中自分のレースができず、ベストは逃したが善戦した。最後3組目に大橋が登場。大橋も前田靖同様ベスト続きで、期待がかかった。しかし、この組も激しい向かい風でベストは厳しいと思われたが、なんと0"1秒以上も自己ベストを上回る結果だった。3人共決勝には進めなかったものの今後期待を持たせるレースだった。(小段)

女子 100m 予選

富田 夏希 (3) 2組2着通過 13.45(-2.9)
廣瀬亜由美 (4) 1組6着 14.43(-2.3)

女子100mには廣瀬と富田が出場。廣瀬ははじめフライングとなり、仕切り直した後の2度目。向い風に苦しめられたか、上位にからめず、見せ場を作ることなく終わってしまった。ぜひ、もう1本、巻き返しのレースをしてほしい。続いて富田。スタートでよく抜け出すことができ、後半とらえられたものの、2着でゴール。優勝にむけ、まずは無難に予選を通過した。(松下)

100m予選

吉田 繁治 (3) 2組1着通過 11.03(-1.5)
眞武 俊輔 (1) 1組2着通過 11.27(-2.9) PB
久保 慶護 (4) 3組3着 11.69(-2.6)

暑い日差しが降り注ぎ強い向かい風が吹き抜ける中、男子100m予選が行われた。まず最初に走ったのは期待の新人である眞武。ここ最近足の調子が悪く多少の心配は否めなかったが、そんな不安をかき消すような激走で見事決勝進出を決めた。つづいて走ったのはエース吉田。スタートから飛ばして行きうまく加速に乗って走り、堂々の決勝進出を果たす。最後は四回生の久保。今回が最後の七大学戦だけに気合いが入っていたが、力みすぎたのかスタートで出遅れてしまい惜しくも決勝進出とはならなかった。(松井)

走幅跳決勝

10位	谷口 康晴	(4)	6m42(+3.4)
17位	田中 伸弥	(4)	5m76(-0.1)
	飯村 大智	(1)	NM

男子走幅跳には、谷口、田中伸、飯村の3人が出場した。飯村は、3回の試技すべてがファール。田中伸は、2回ファールの後、3回目に5m76cmの記録を残すにとどまった。谷口はファールの後の2回目、6m42cmで8位圏内に入るが、3回目にその記録を越えられ、逆転を賭けた跳躍もファールに終わった。当日は強烈な追い風が吹いており、選手は踏切の微妙な調節に苦労させられ、ファールはほんの僅か越えただけというものがほとんどだった。(四辻)



宣言通りワン・ツーを決めた小山兄弟

砲丸投決勝

6位	嶋田研志郎	(4)	11m71 PB⑨
9位	佐藤 慎祐	(4)	10m39
13位	矢川 勝太	(4)	8m96

矢川は一投目ファールで、二投目三投目は9m台だったが腰の痛みもあったのか目標の10mにはあと一步届かなかった。佐藤は二投目ファールで、一投目三投目は10m台だったが決勝には惜しくも届かなかった。矢川、佐藤ともこの後出場するやり投でこの悔しさを存分にぶつけて欲しい。嶋田は投げる毎に記録を伸ばし、11m台で決勝へ進み、決勝では自己ベストの投てきを見せてくれたが、競っていた阪大の2名に悔しくも敗れた。(桐山)

1500m 決勝

優勝	小山 俊之	(3)	3.58.13
2位	小山 裕之	(4)	3.59.10
18位	坂本 剛	(3)	4.14.98

風は時折強く吹いていたが、小山俊之はスタート直後から積極的に先頭に出た。そのすぐ後ろに兄の裕之が続く。坂本は先頭集団後方に位置取り、落ちついた入りを見せた。ラスト300mにさしかかると俊之は切れ味鋭いスパートを放ち一気に畳み掛け、ゴールへ。圧倒的強さで3連覇を果たした。俊之のスパートにただひとり裕之が必死に食い下がり俊之を追いかける。優勝は俊之に譲ったものの3位以下を大きく引き離し、3分台でゴール。このところ上り調子の坂本にも期待が高まったがいったん先頭集団から引き離されると次第に順位を落とし、悪条件の中、実力を出し切れず走り終えた。(瀬瀬)

400m 決勝

7位	萩生 翔太	(3)	52.49
----	-------	-----	-------

400m 決勝には予選トップの走りを見せた萩生が出場した。ピストルと同時に萩生は勢いよく飛び出し、前半は周りを圧倒するようなハイペースで後続を突き放す。だがこの積極性が裏目に出て、そこからは苦しい展開となる。300mまでは力強い粘りで先頭をキープするものの、最後の直線で激しい向かい風が立ちただけで、失速して7着でフィニッシュした。この結果は萩生自身にとってもかなり悔しいものである。しかしこの経験をバネに本学のエース萩生将大が更なる飛躍と活躍をみせてくれることを期待したい。(浅井)

女子 100m 決勝

4位 富田 夏希 (4) 13.33(-0.7)

女子 100m 決勝は向かい風 0.7m と今日のうちでは比較的良い条件のなかで行われた。スタートでは北大の沼田がひとつ抜け出したが、富田も阪大の牛山・川守田の2人と並びますまずのスタートを切った。中盤では思いのほか伸びず後続からじわじわとつめよられたが、なんとか粘り 13.33 というタイムで見事 4 位に食い込んだ。(橋本)

100m 決勝

2位 吉田 繁治 (2) 10.96(+0.8)
3位 眞武 俊輔 (1) 11.07(+0.8) PB

吉田も眞武も完璧なスタートを決めた。スピードに乗った吉田はトップに立つ。それに続いたのは眞武。吉田の半歩後ろを離れることなく食らいつく。ラストの 10m。惜しくも阪大武田にかわされるも気迫溢れるフィニッシュで見事 2 位に飛び込んだ吉田。そしてなんとそれに続いたのはルーキー眞武。追い上げる 4 着との同タイム接戦を見事に制した。2 人が表彰台に立つというこの激走にスタンドの盛り上がりはレース後暫くおさまらなかった。(天ヶ瀬)

女子 800m 決勝

優勝 岩橋 優 (1) 2.17.72
8位 福谷 彩織 (2) 2.29.72



圧倒的な強さで優勝した岩橋

女子 800m には福谷と岩橋の 2 人が出場した。福谷は先日の京都選手権で大学ベストを出し、調

子を上げてきている。レースでは序盤は集団についていたが、200m を通過した辺りから徐々に離されてしまう。それでも粘りを見せ、8 位に入った。余裕の走りで 400m の予選を通過した岩橋。スタートから先頭集団を引っ張り、ラストスパートで後続を引き離して危なげなくトップでゴールした。今後の更なる飛躍に期待したい。(塚本)

女子走幅跳決勝

5位 富田 夏希 (4) 5m10(+2.5)

最後の七大戦、この舞台にかける富田の想いは人一倍強かった。一本目から助走・跳躍ともに好調である。しかし踏み切りが合わず思うように記録が伸びない。ラストの 6 本目ではようやく足を合わせ、5m を越えるジャンプを見せたが、表彰台へは遠く非常に悔しい思いをした。(山添)

走高跳決勝

4位 松室 堯之 (2) 1m85 CB⑫
11位 巳波 壮馬 (3) 1m80 CB
16位 皆川 広太 (4) 1m70

雲一つない空のもと競技は行われた。強い風が向きを変え続ける難しい状況のなかで選手たちは苦戦強いられた。そのなか、皆川は 1m70 を成功するにとどまった。巳波は、苦戦しながらもバーをあげていき、高校以来の 1m80 まで成功した。松室は比較的快調にバーをこえていき、大学ベストとなる 1m85 を二回目の試技で成功した。1m90 に臨む時には彼を含め残り四人。これを跳べば表彰台。しかし、疲れが出たのかバーをこえることはなかった。来年の七大は是非表彰台に上ってほしい。(藤本)

やり投決勝

5位 佐藤 慎祐 (4) 54m12 PB
14位 矢川 勝太 (2) 45m09 PB
16位 川島 龍樹 (2) 41m45 PB

強い向かい風の中行われた男子やり投げ決勝。成長の著しい川島は 3 本目に 45m 超えを投げベストを更新。田中の代わりに急きょ出場になった矢川もそれを感じさせない投擲でベストを出す。七大戦といえばお祭り男、佐藤である。一本目に 50m を超える投げを見せ、六本目には自己ベストを大

幅を超える投擲をみせるなど主将としての強い思いのこもった競技だった。(白石)

800m 予選

水元 惟暁	(1)	3組3着通過	1. 58. 50	
内田 健弥	(2)	1組4着	2. 00. 59	CB
大川 亮	(2)	2組1着通過	2. 02. 39	

気温30度を越える暑さの中、男子800m予選は始まった。内田はスタートから500mまで5番手につき、500~600mにかけてスパート。ラストは東大の坂井に刺され、惜しくも4位だったが、ラストまで粘った走りだった。大川は1周目が62秒というスローペースの中、常に先頭をキープ。550~600mにかけての接触をものともせず、悠々とした走りで予選を通過した。水元は序盤からポケットされ、苦しい展開となった。しかし、2周目バックストレートで一気に集団を抜けた。この判断は正しく、ラストも粘って組3着でゴール。無事決勝へとコマを進めた。(神埜)

400mH 予選

岡本 京祐	(4)	1組4着	57. 19
大橋 正義	(2)	3組4着	58. 27
山口 芳弘	(2)	2組4着	59. 22

男子400mハードルの予選もホームが向かい風の条件の中でスタートした。1組には岡本が登場。逆足も駆使して力走を見せたが、決勝進出は果たせなかった。二組目に出場した山口芳は、中盤から足が合わずリズムに乗り切れず、終盤は向かい風の影響もあって苦しいレースとなってしまった。最終組の大橋は前半からリズムよくハードルを越えていったが、この組が一番厳しく、上位進出はならなかった。(河本)

200m 予選

吉田 繁治	(3)	3組着通過	22. 82(-1. 7)
吉川 直樹	(4)	2組4着	23. 37(-2. 1)
前田 峰尚	(3)	1組4着	23. 73(-1. 9)

一組目には前田峰が登場した。インコースから前半で隣の選手に迫る走りで直線に入る。しかし前を追い切れず4着であった。二組目に出場した吉川は前半スムーズな加速で3番手で直線へ。最後は粘るも4着でゴールした。最終三組には吉田が登場した。スタートで出遅れたように思われた

が、やはり短距離エースの実力を発揮し、見事に決勝進出を決めた。3人とも気合いのこもったチームを勢い付ける走りであった。(清水)

女子砲丸投決勝

7位	富田 夏希	(4)	6m99
8位	市塚 友香	(2)	6m56 PB

午後二時頃、強い日差しの中行われた長丁場は、女子砲丸投。予定より少しだけ早く始まったこの種目へは、富田と市塚が出場した。市塚は一投目で6m56。これは自己ベストを更新する記録であり、その後も安定して6m台を投げ続けた。今後の伸びに要注目である。多種目出場の富田も常に6mは越えて投げ続け、6m後半を幾度も投げた。しかし今ひとつ伸びず、惜しくも7mには届かなかった。(佐々木)

女子3000m 決勝

11位	上田 容子	(2)	11. 57. 30
14位	伊藤 慶紗	(1)	12. 52. 86

女子3000m決勝は気温の上がりきった14:00から行われた。2回生の上田は今期大学ベストを出しており、全体的にレベルの上がっている種目ではあったが積極的に前に出る走りを見せた。しかし、風が強かったこともあって満足な記録を残すことはできなかった。1回生伊藤は大学初の3000mのレースであった。ラスト一周こそ離されたものの、終始前の選手について走る粘りのあるレースを展開した。(森山)

4×100mR

2位 42.10

[久保慶護-吉田繁治-秋元一志-藤澤健斗]



後続の猛追を振り切り準優勝した男子四継メンバー

まず、第一走を担うのは100mで惜しくも決勝を逃した久保。4継ではその悔しさを晴らすような快調な走りで短距離エース、吉田へとつないだ。吉田は100mと200mの疲れを感じさせず当然のように前との差をつめていく。3走、秋元とのバトンもスムーズにつながり秋元も危なげない走りで4走の期待の新人、藤澤へとバトンをつなぐ。ここで若干バトンパスが詰まってしまったがラストの向かい風の中、粘りの走りで二位に食い込むことができた。阪大に逃げ切られ優勝を逃しはしたが、七大戦という舞台にふさわしいレースであった。(宿利)

女子400m決勝

優勝 岩橋 優 (1) 60.03 PB②

4位 加奈山憲代 (1) 63.01

気温30度越えの炎天下の中400決勝に臨むのは、期待の一回生コンビ岩橋と加奈山。800の力走で優勝した岩橋には2冠の期待がかかる。予選を大学ベストで堂々通過した加奈山にも大きな期待がかかった。スタートから岩橋は疲れを感じさせない驚異の走りを見せ、ラストは笑顔で堂々の2冠を果たした。加奈山は冷静な滑りだしを見せるもののラスト100の素晴らしい伸びで一人をかわして4位でゴール。文句なしの入賞で得

点を稼いだ。二人とも普段のひたむきな練習が実を結び、素晴らしい力走を見せてくれた。(毛柴)

三段跳決勝

13位 秋山 源 (4) 12m73(+2.5)

小長谷幸平 (2) NM

飯村 大智 (1) NM

昨年は惜しくも入賞を逃した秋山。今年に入賞を目指す。追い風に乗って3本ともバランスの良い跳びであったが、関カレでのけがの影響もあり、3本とも伸びが足りず、13mには届かなかった。一方対校戦初出場である小長谷と飯村、両者とも七大という雰囲気にもまれることなく堂々と試合に挑んだが、足合わせが安定せず、3本とも記録なしという結果に終わった。まだまだ伸びしろは十分あるので、今後の彼らに期待したい。(大橋)

800m 決勝

3位 大川 亮 (2) 1.57.41

6位 水元 惟暁 (1) 1.59.34

2回生大川と1回生水元が出場。2人は序盤から集団の先頭にくらいついた。そして、そのまま1周を過ぎるまで集団は崩れず、緊迫した状況が続いた。1周を過ぎた時点で集団は分裂するが、2人とも先頭集団についていった。だが、500m付近で水元が遅れ始めてしまう。ラスト200mで先頭はラストスパートをかけるが、大川は必死に食らいついて行った。そして、ラスト数十mで後続に追いつかれるが、振り切って見事に3位を獲得した。賞状を獲得した大川と1年生ながら入賞した水元の今後に期待したい。(阿部)



ラストのデッドヒートを制し3位に入る大川

200m 決勝

3位 吉田 繁治 (3) 22.64(-2.4)



5本目のレースで100mに続き表彰台に登る吉田

今シーズン決して好調とは言えない中で、100m、4x100mと好走を見せた吉田が、この日5本目となる200mに挑む。前半から果敢に攻めるが、阪大武田と大家の前に苦戦を強いられ、直線に出てから決死の追い上げも及ばず3位。だが、オーロラビジョンに映し出された京大短距離を支えるエースの笑顔と健闘に、京大ベンチからは最高の歓声が贈られた。(久保)

5000m 決勝

優勝 小山 俊之 (3) 15.20.33
8位 小山 裕之 (4) 16.04.03
11位 柿本 悠貴 (3) 16.15.89

まだまだ暑い中行われた5000m決勝はスローペース。勝負に徹した小山俊之は良い位置で機会をうかがう。3000m付近でトップにたつと徐々にペースを上げ、ラスト250mでスパートをかけると圧巻のスピードで後続を突き放し、見事1500mとの2冠達成。午前の1500m決勝で2位だった小山裕之は集団に付き、最後まで力走したがやはり疲れもあったのか惜しくも8位。柿本も集団から離れそうになったものの何度も粘りを見せて食らいつく。しかし暑さの影響もあってか苦しくも11位となった。(高田)

女子 4×100mR

5位 52.48

【廣瀬亜由美-冨田夏希-加奈山憲代-岩橋優】



多項目出場も素晴らしい走りで京大女子を引っ張った冨田(右)

七大戦も終盤、まだ強い日差しの中、女子四継が行われた。京大は1レーン。号砲と共に1走の廣瀬が見事なスタートを切った。しかし2走冨田とのバトンが少し詰まった。冨田が追い上げるが、3走加奈山とのバトンも少し詰まり、京大5位で四走岩橋に渡った。ラストで一つ前の東大と競るが、わずかに及ばなかった。バトンが繋がればいけると意気込んでいただけに非常に残念であった。(伊藤慶)

4×400mR

5位 3.26.36

【吉川直樹-萩生翔大-山口芳弘-山瀬康平】

最後の種目となるマイルリレー。朝から照り付ける日差しは今もお止むことはない。熱気が競技場を包み、スタンドの応援がさらに熱気を増した。号砲が鳴る。一走の吉川は遅れをとりながらも粘り強い走りでバトンをつなぐ。二走の萩生は、猛烈な追い上げを見せ一気に順位を二位に押し上げた。続く三走の山口も快走を見せ、良い流れを保ちバトンは四走の山瀬へ。山瀬は力走するも順位を落とし、京大は惜しくも5着。しかしながら、全ての京大陸上部員が一体となった一瞬であった。いーぞーいーぞー京大(永田)

七大戦男子記録

100m (+0.8)

1	武田 考功	大阪大	10.83
2	吉田 繁治	京都大	10.87
3	真武 俊輔	京都大	11.07
4	信時 盛人	大阪大	11.07
5	山崎 雄大	名古屋大	11.10
6	片岡 裕貴	名古屋大	11.19

200m (-2.4)

1	武田 考功	大阪大	21.97
2	大家賢志郎	大阪大	22.46
3	吉田 繁治	京都大	22.64
4	信時 盛人	大阪大	22.74
5	飯田 謙	北海道大	22.85
6	松田 亮介	九州大	23.05

400m

1	高野 陽介	大阪大	50.02
2	山下 康平	九州大	51.02
3	藤浪 大輔	名古屋大	51.29
4	中川 裕規	名古屋大	51.80
5	安部 誉史	九州大	52.25
6	大沢 渉	東京大	52.28

800m

1	山田 佳祐	大阪大	1.56.66
2	井上 博人	名古屋	1.56.80
3	大川 亮	京都大	1.57.41
4	本間 亮太	東北大	1.57.42
5	吉田 洋平	大阪大	1.58.89
6	水元 惟曉	京都大	1.59.34

1500m

1	小山 俊之	京都大	3.58.13
2	小山 裕之	京都大	3.59.10
3	中山 祐作	北海道大	4.00.39
4	西村 研郎	名古屋大	4.02.18
5	阪口 剛志	名古屋大	4.02.85
6	山田 竜也	東京大	4.03.65

5000m

1	小山 俊之	京都大	15.20.33
2	宮野 健司	東京大	15.24.09
3	村西 研郎	名古屋大	15.30.97
4	田中 佑治	名古屋大	15.33.26
5	東 大貴	東京大	15.41.01
6	山本 崇博	名古屋大	15.52.93

110mH (-3.7)

1	南 勇一郎	大阪大	15.38
2	中尾 貴大	名古屋大	15.40
3	酒谷 彰一	東京大	15.44
4	岩崎 辰哉	東北大	15.48
5	一ノ倉 聖	東北大	15.80
6	山内 一将	九州大	15.84

400mH

1	村上 卓	北海道大	53.93
2	柴田 智弘	東北大	54.31
3	赤木 裕	東京大	54.33
4	小間 洋和	大阪大	55.06
5	高木 海平	東京大	55.47
6	福間 俊吾	大阪大	56.74

3000mSC

1	山根 裕樹	大阪大	9.30.94
2	櫻井 研吾	京都大	9.31.22
3	飯塚 彬光	名古屋大	9.32.30
4	山田 唯	京都大	9.33.53
5	尾形 翔平	東北	9.40.61
6	平岡 悠	名古屋大	9.42.59

4×100mR

1	大阪大	41.73
2	京都大	42.10
3	九州大	42.15
4	名古屋大	42.29
5	東北大	43.16
6	北海道大	43.42
7	東京大	DSQ

4×400mR

1	九州大	3.21.50
2	名古屋大	3.23.69
3	東北大	3.25.55
4	東京大	3.25.88
5	京都大	3.26.36
6	北海道大	3.27.16
7	大阪大	3.43.60

走高跳

1	竹内 将人	北海道大	1m95
2	吉永 光宏	大阪大	1m85
3	藤田 光	大阪大	1m85
4	松室 晁之	京都大	1m85
5	坂本 智	東京大	1m80
6	峰岸 達矢	大阪大	1m80

棒高跳

1	高橋 理寛	東北大	4m50
2	田中 皓介	京都大	4m40
3	秋元 一志	京都大	4m40
4	高橋 遼	大阪大	4m20
5	小谷 優人	名古屋大	4m00
6	藤井 翼	東北大	4m00

走幅跳

1	花谷 昂	大阪大	7m41
2	井口 和之	大阪大	7m22
3	山田 博之	名古屋大	7m17
4	堀内 康孝	九州大	7m10
5	鈴木 一輝	東北大	7m09
6	飯田 謙	北海道大	7m04

三段跳

1	花谷 昂	大阪大	15m35
2	勢力 薫	大阪大	14m65
3	井口 和之	東北大	14m46
4	廣瀬 彬	東京大	14m43
5	瀧澤 翔太	東北大	14m30
6	定金 駿介	東京大	14m21

砲丸投

1	今泉 卓真	東北大	12m85
---	-------	-----	-------

2	柳沢 邦彦	東北大	11m26
3	菊池 晃一	東北大	12m01
4	前田 拓樹	大阪大	11m88
5	池田 雄紀	大阪大	11m79
6	嶋田研志郎	大阪大	11m71

円盤投

1	柳沢 邦彦	東北大	44m48
2	今泉 卓真	東北大	38m42
3	太田 祐輔	大阪大	35m13
4	菊地 晃一	東北大	35m12
5	佐々木 駿	東京大	34m98
6	西川 祐示	名古屋大	34m55

ハンマー投

1	今泉 卓真	東北大	52m35
2	太田 祐輔	大阪大	46m62
3	池田 雄紀	大阪大	43m91
4	久下 哲寛	京都大	43m88
5	寺島 孝明	東京大	41m95
6	佐藤 慎祐	京都大	38m15

やり投

1	橋田 金重	北海道大	62m34
2	杉本 和志	東北大	62m33
3	谷 彰一郎	東京大	58m78
4	福井 彰人	大阪大	57m03
5	佐藤 慎祐	京都大	54m12
6	佐藤 紘一	九州大	52m56

七大戦女子記録

100m (+2.0)

1	沼田亜侑美	北海道大	12.85
2	牛山 綾	大阪大	13.07
3	川守田 優	大阪大	13.30
4	富田 夏希	京都大	13.33

400m

1	岩橋 優	京都大	60.03
2	絹岡なずな	大阪大	60.96
3	日下 桃子	東京大	61.15
4	加奈山憲代	京都大	63.01

800m

1	岩橋 優	京都大	2.17.72
2	日下 桃子	東京大	2.20.11
3	山本しおり	名古屋大	2.21.25
4	歌津 歩	大阪大	2.21.84

3000m

1	山本しおり	名古屋大	10.18.17
2	那須 祐子	九州大	10.22.55
3	安川 由紀	大阪大	10.33.10
4	益岡 佑季	大阪大	11.07.74

4×100mR

1	北海道大	50.92
2	大阪大	51.12
3	名古屋大	51.48
4	東京大	51.48
5	京都大	52.48
6	東北大	54.00
7	九州大	DNS

走高跳

1	湯澤 明夏	北海道大	1m49
2	木本 早苗	大阪大	1m46
3	丹家 里苗	東京大	1m43
4	菊地亜加里	東北大	1m40
4	加藤ほたる	大阪大	1m40

走幅跳

1	沼田亜侑美	北海道大	5m63
2	高島 知充	北海道大	5m36
3	菊地亜加里	東北大	5m17
4	高山 花子	東京大	5m17

砲丸投

1	小中真由美	名古屋大	10m43
2	河辺 梨央	大阪大	8m40
3	楠木 千尋	東京大	8m15
4	川守田 優	大阪大	7m97

七大戦オープン結果

▼100m

藤澤 健斗	11.61	-2.4
長谷川 聡	11.74	-1.7
石田 真大	12.09	-3.9
山田 諒	12.13	-3.2
大野 敦史	12.19	-2.2
松井 大門	12.20	-2.4
三浦 祐介	12.33	-2.3
大橋 正義	12.44	-2.4
川室 太希	12.50	-3.0
田中 皓介	12.66	-2.2
清水 宏幸	12.70	-3.8
小林 啓人	13.24	-2.3

▼400m

佐藤 翔士	51.90
藤崎 淳	53.89
天ヶ瀬匡昭	54.65

▼1500m

岡本 英也	4.00.07	
佐藤 翔士	4.09.31	
前田 達朗	4.13.95	
前川 真彦	4.17.51	
宿利 隆司	4.22.19	
浅井 健介	4.27.00	
毛芝 雄己	4.28.04	PB
河埜 勝	4.30.16	
松下 亮祐	4.34.61	
中桐 寛仁	4.38.49	
中川 敦夫	4.43.96	
高田 裕人	4.47.80	

▼5000m

西原 由高	16.23.13
不破 佑太	16.26.06
宇部 達	17.22.02
佐藤 翔士	17.56.23
永田 和寛	18.16.8
前田 達朗	DNF

▼5000mW

生谷 隆磨	25.22.09	PB④
中桐 博仁	DSQ	
永田 和寛	DSQ	

▼4×400mR

佐藤翔-小野山-平子-上田	3.38.0
河本-神埜-浅井-宿利	3.38.4
桐山-橋本-四辻-長谷川	3.38.6

▼走幅跳

三浦 祐介	6.02	+2.8
▼やり投		
三浦 祐介	41.31	
▽100m		
山口 咲希	14.00	-3.3
▽1500m		
山添 由貴	5.04.97	CB

記号の見方

▼：男子種目 ▽：女子種目

PB：自己新記録

CB：大学における新記録

♪：大学初レース

蒼穹新：蒼穹新記録

○数字は蒼穹ランク(20位まで)



蒼穹ニュース 平成21年度 第4号

平成21年8月4日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：白石晃将・田中皓介・山口芳弘（副務）

特別協力：鈴木大河・宿院 享（学連員）

内田健弥（記録係）・秋元一志（HP 係）

写真担当：大橋正義・松井大門・塚本裕

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic>

ミラーサイト <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

陸上部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.htm>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/icaak/index.htm>

メールアドレス y-yoshihiro@art.email.co.jp（山口芳）
